

れき じん

となん歴民だより vol.62

Morioka tonan history and folklore museum

令和2年3月31日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



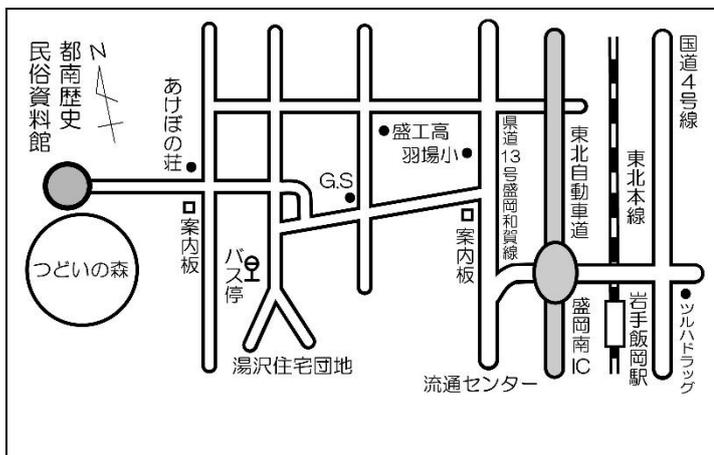
鎌田隆氏所蔵 雛人形

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 旧暦ひなまつり展のご案内
- ユネスコ無形文化遺産の提案候補について
- かけはしの会活動報告
- 令和2年度展示事業予定
- 資料は語る(62)
- 盛岡市所在指定・登録文化財紹介(62)
- となんの先人⑤

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、直近の平日)、年末年始

市民参加展 鎌田コレクション

第10回旧暦ひなまつり展開催のお知らせ

令和2年3月14日(土)～4月19日(日)

2月になると、各地でひな人形の展示が始まります。町を挙げて行うもの、歴史ある建造物で楽しむもの、博物館等施設で鑑賞するもの、つるし雛など手作り作品を並べたもの、それぞれが趣向を凝らし、厳しい冬の終わりに華やぎを与えています。

盛岡市都南歴史民俗資料館では、一足遅く旧暦の時期に合わせ、毎年3月からひなまつり展を開催しております。盛岡市内在住の収集家鎌田隆氏の協力で始まったこの展示も、今回で10回目を迎えます。精巧な造りの本格的な雛人形をはじめ、温かみのある木目込人形、木製や陶製、紙製の素朴な雛人形、花巻人形など、実に多種多様です。人々が子どもの健やかな成長を願い、春の到来を喜ぶ気持ちを形にしたこれらの人形は、その想いの強さを伝えてくれます。



鎌田隆氏所蔵 ひょうたん雛
ひょうたんに着色したもの

永井の大念仏剣舞を含む「風流踊」が ユネスコ無形文化遺産への提案候補に選ばれました

令和2年2月19日、国の文化審議会は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）無形文化遺産の国内候補に「風流踊^{ふりゅうおどり}」を選定しました。

「風流踊」とは、盆踊、小歌踊、念仏踊、太鼓踊などの民俗芸能で、除災、死者供養、豊作祈願、雨乞いなどを願うものです。盛岡市永井に伝わる大念仏剣舞もそのうちのひとつにかぞえられます。ほかには、本県北上市・奥州市の鬼剣舞^{にしもない}、秋田県の西馬音内の盆踊、神奈川県のチャッキラコなどが挙げられます。今回、北は岩手県・秋田県から南は大分県・宮崎県まで、日本各地に伝承されてきた37件の風流踊を一括し、提案候補としています。



盛岡市教育委員会

今後は、3月末までに日本政府がユネスコに申請書を提出し、令和4年（2022）11月にユネスコ政府間委員会で審議を受ける見通しとなっています。

永井の大念仏剣舞は、昭和55年（1980）に国指定重要無形民俗文化財に指定され、現在も永井大念仏剣舞保存会によって伝承されています。

この踊りは回向踊り^{えこう}で、音頭は「南無阿弥陀仏」を基本にした念仏歌です。異なる持ち物を手にした踊子たちが、同時に、一緒に踊るのが特色で、なかでも円形の台の上に仏塔を乗せた大笠^{だいがさ}を頭上^{かぶ}にのせて大きく振りながら踊る「笠振り」は圧巻です。

寛政（1789～1801）の頃、庭元の祖先が南日詰（現紫波郡紫波町）から養嗣子に來た際にこの踊りを移入したことに始まります。

現在、上演は不定期ですが、民俗芸能フェスティバルなどの催しで鑑賞できる可能性があります。出演団体はイベントごとに異なりますので、その都度ポスター・チラシなどをご確認ください。



盛岡市教育委員会



「となん・かけはしの会」活動報告

今年度第5回茶話会は、1月14日（土）に「岩手の和牛～南部牛から日本短角種～」と題して開催されました。講師は、当会の会員の方が務めてくださいました。

中世にあるとみられる南部牛の起源、近世における役牛としての役割、近代の日本短角種への品種改良、現在の状況など、歴史的な事柄から現状まで解説いただき、身近なようで実はよく知らなかった和牛について、深く知ることができる講座でした。この場をお借りし、講師の方に御礼申し上げます。

※3月14日（土）に予定しておりました第6回茶話会は、新型コロナウイルス感染予防のため中止といたしました。

となん・かけはしの会では随時会員を募集しています（※要年会費）。

歴史好きな方はぜひご入会ください。

都南地域在住の方はもちろん、都南地域以外にお住まいの会員さんも多数いらっしゃいますので、お気軽にご連絡ください。

令和2年度企画展(予定)のご案内

市民参加展「鎌田コレクション ガラスのうつわ」

令和2年6月20日（土）～8月23日（日）

かき氷皿や昔のビール瓶など鎌田隆氏所蔵のガラスの器を中心に、当館所蔵資料を展示します。

企画展「都南の隠れた宝もの～都南歴民40周年～」

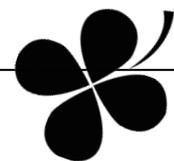
令和2年10月3日（土）～8月23日（日）

令和元年度に40周年を迎えた当館収蔵資料を選びすぐり展示し、その価値を再発見します。

市民参加展「鎌田コレクション 第11回旧暦ひなまつり展」

令和3年3月20日（土）～4月18日（日）

旧暦の時期に合わせて鎌田氏所蔵の雛人形や花巻人形を展示します。





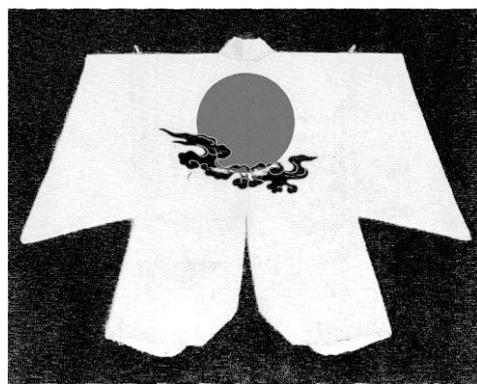
どめき 透かし付高坏

器高 5.6cm の土師器である。昭和 53 年 (1978) の発掘調査で出土した。百目木遺跡は盛岡市三本柳に所在するが、一定の年代以上の方には「ニチイがあった場所」と言った方が通りが良いだろう。奈良時代のもので推測され、6.8m 四方の大規模な住居跡の床面から出土した。

令和元年 (2019)、盛岡市遺跡の学び館による西鹿渡遺跡発掘調査で、一辺 7.0m あまりの大形竪穴建物跡のカマド右側から透かし付きの高坏が出土した。西鹿渡のものには赤色顔料が塗られているなど数々の違いがあるとのことだが、両遺跡間の距離は約 600m であり、近接地で類似した遺物が出土したことから、何らかの関連性が指摘できるかもしれない。

今後の調査研究により、多くを語る可能性を秘めた資料である。

県指定有形文化財



もりおか歴史文化館収蔵

南部家伝来陣羽織 4 領のうち
白羅紗地日の出紋陣羽織

南部家伝来衣装のひとつで、初代藩主信直あるいは 2 代藩主利直が着用したものと考えられています。

舶来の羅紗地を使用し、外来の縫製技術を導入して製作されました。袖や背などの大胆なカット、当時最高級であった猩々緋の羅紗を大きく切り嵌めにした日の出紋、黒ビロードで縫い付けた雲紋が目を引きます。

桃山～江戸時代初期の陣羽織には、戦国の世を反映し豪放・勇壮で、南蛮文化の影響から奇抜斬新なデザインのものが多くみられますが、この陣羽織にもその特徴がよく現れています。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)
もりおか歴史文化館『南部家の至宝』(2011)

となんの先人⑤ 小山田ムラ

四人の息子と共に手代森に入植し、果樹園経営を軌道に乗せ、県内の果樹生産振興に大きく貢献した女性である。

明治初年、ムラは夫の小山田岩松とともに浅岸村新庄(現盛岡市新庄)に住み紺屋を営んでいた。しかし、取引先が火災にあつたため大損害を蒙り、続いて自分の家までも焼失するという不運に遭遇した。その後岩松は健康を害し四十六歳で他界した。ムラは中野村門(現盛岡市門)に移住し、土木作業、山仕事などの力仕事をして生活の糧を得、四人の子を育てあげた。長男が一人前になると、北上川原に土地を借り開墾し、梨の栽植をした。しかし数年後の明治四十三年(一九一〇)、収穫を間近に迎えた九月、北上川の氾濫により、梨の樹は根こそぎ倒され、梨園は泥田と化した。

翌月、ムラは再度の不幸にもめげず、四人の息子と共に、手代森新道に入植した。藪地の一角を借地とし、流木を集めて建てた小屋を住居と定め、再起を図った。十月末から開墾を開始し、翌年春までに約二ヘクタールを開いた。梨の栽植、蔬菜(野菜などの食用植物。茸も含む)の播種(種まき)など、ムラは息子たちを督励し経営に当たった。やがて耕地に整地され梨の幼木促成期間は専ら蔬菜栽培が主となった。その後十年足らずして手代森の果樹園経営は安定し、ムラは子息を独立させるべく適地を購入し入植計画を実施した。

大正六年(一九一七)秋、盛岡市三ツ割の第一北山果樹園を長男八太郎に継がせたのを皮切りに、宿田、向中野、三ツ割(第四果樹園)、手代森の各果樹園を息子たちなどに割り当て提携させた。一門の研究と指導は本県の果樹生産振興に大きく寄与した。

昭和のはじめ、ムラは手代森の地を離れ、長男八太郎の元に移り余生を楽しんでいたが、昭和六年(一九三二)、七十八歳の生涯を終えた。